

都市環境の快適性に関する市街地住民の意識調査

01A3752 中村 広剛 01A3795 大平 智治
指導教員 片山 正敏

1. はじめに

都市生活者にとって、水の音や風の音は、時として心地良く感じることもあれば、不快に感じることもある。快適で住みよい都市環境の創出にあたっては、このような音環境の快適性にも配慮した基本計画が大切である。この観点から、都市環境の快適性に関する市街地住民の意識についてアンケート調査を実施した。

2. アンケート調査の概要

北九州市・中間市の市街地住民に対するアンケート調査の概要を表-1に示す。調査場所は北九州市および中間市の市街地で、アンケート調査票を配布・留置・回収の方法により行った。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	北九州市および中間市の市街地住民
調査期間	平成16年8月中旬～9月中旬
調査方法	居住地を訪問し、配布・留置・回収により行った。
調査項目	属性4 ・地域の清潔さに関する快適性6項目 ・ポスター・看板・広告などに関する快適性5項目 ・緑地に関する快適性6項目 ・騒音に関する快適性6項目 ・河川・池・用水路に関する快適性5項目 ・公共交通機関に関する快適性5項目（合計33項目）
配布数	122部（有効回答部数 116部）
有効回収率	95.1%

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

3. 回答者の属性

(1) 回答者の性別

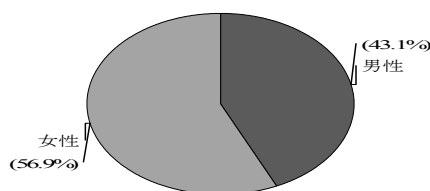


図-1 回答者の性別

回答者の性別は、女性：56.9%、男性：43.1%と、女性のほうが多い（図-1参照）。

(2) 回答者の年齢

年齢では、20歳代の回答者が31人と一番多くなっている。一番少ない年齢層は50歳代11人である（図-2参照）。

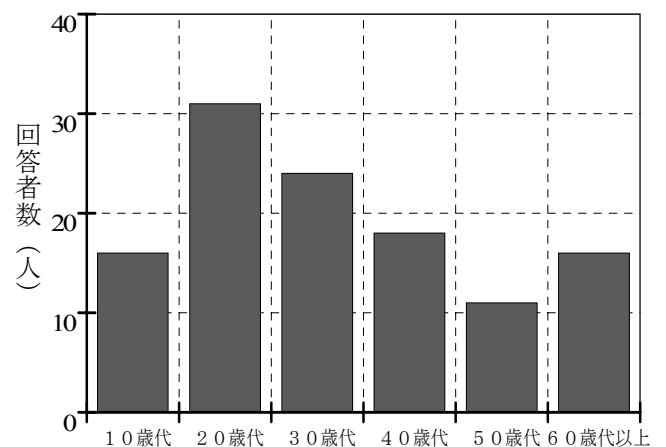


図-2 回答者の年齢

(3) 回答者の職業

回答者の職業は、会社員が43人と多く、続いて、学生30人、その他（年金生活者など）19人、専業主婦17人となっている。反対に少ないのは自営業の7人である（図-3参照）。

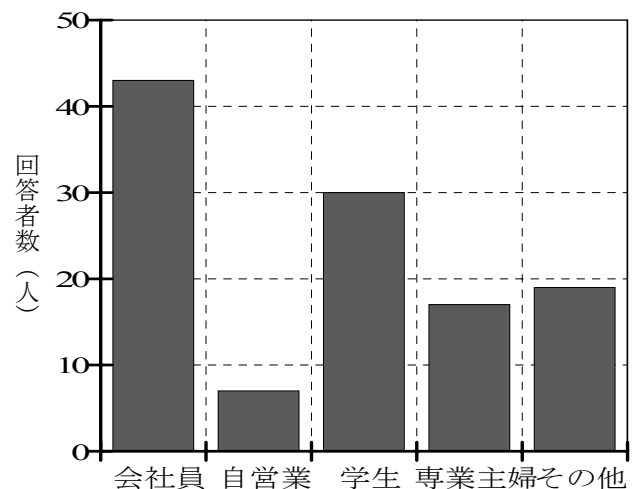
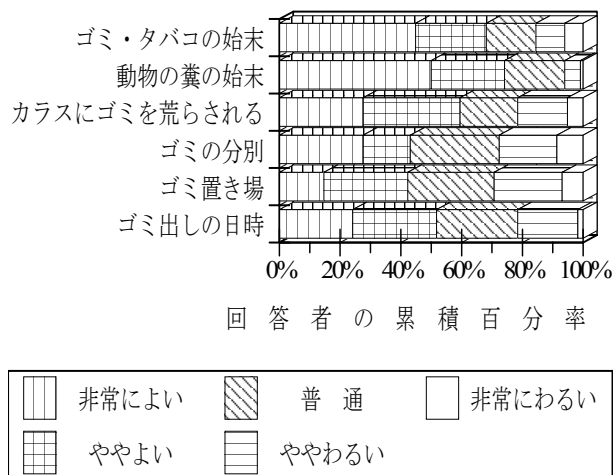


図-3 回答者の職業

4. 地域の清潔さに関する快適性

地域の清潔さに関する快適性について、6項目の回答を比較した（図－4参照）。

“非常によい”と回答しているのは、動物の糞の始末で一番多く50%近い。続いてゴミ・タバコの始末となつている。“非常にわるい”と回答している人が一番多いのはゴミの分別で不快と感じている人が多いことがわかる。

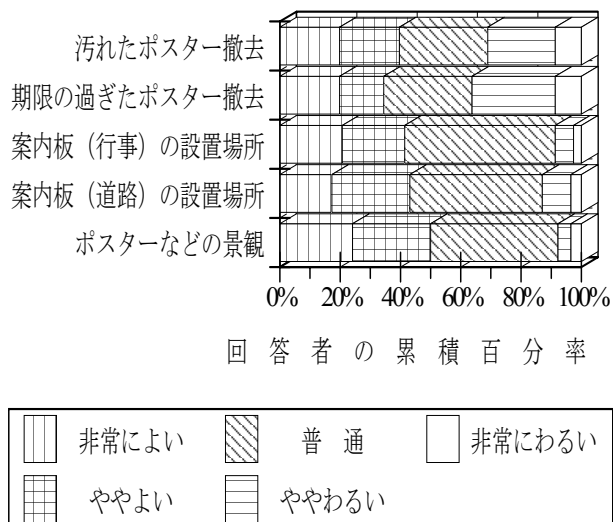


図－4 地域の清潔さに関する快適性

5. ポスター・看板・広告などに関する快適性

ポスター・看板・広告などに関する5項目の回答について比較した（図－5参照）。

“非常によい”と回答しているのは、ポスターなどの景観で、23%と一番多い。続いて、案内板（行事）の設置場所、期限過ぎたポスター撤去、汚れたポスター撤去がほぼ同じで続いている。“非常にわるい”と回答しているのは、汚れたポスター撤去と期限の過ぎたポスター撤去でほぼ同じである。

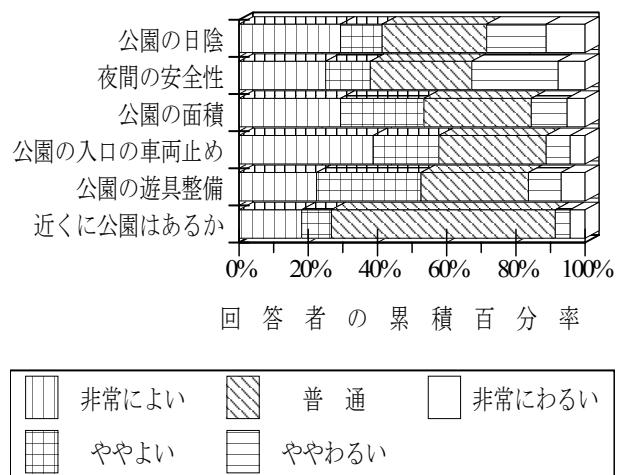


図－5 ポスター・看板・広告などに関する快適性

6. 緑地に関する快適性

緑地に関する快適性について、近くに公園があるか、公園の遊具の整備、公園の入口車両止め、公園の面積、夜間の安全性、公園の日陰を比較した（図－6参照）。

“非常によい”と回答しているのは、公園の入口車両止めが、一番多い。続いて、公園の面積、公園の日陰がほぼ同じである。それに、“非常にわるい”と回答している人が一番多いのは、公園の日陰である。

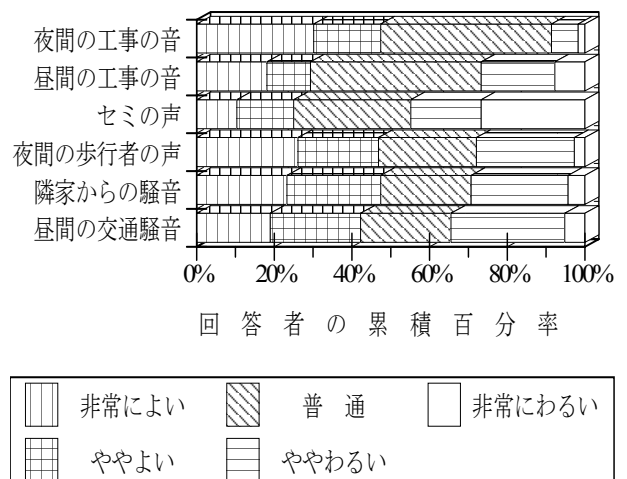


図－6 緑地に関する快適性

7. 騒音に関する快適性

騒音に関する快適性について、昼間の交通騒音、隣家からの騒音、夜間の歩行者の声、セミの声、昼間の工事の音、夜間の工事の音を比較した（図－7参照）。

“非常によい”と回答しているのは、夜間の工事の音で、一番多い。続いて、夜間の歩行者の声、隣家からの騒音が続いている。また、“非常にわるい”と回答している人が一番多いのは、セミの声で25%となり、セミの声はうるさいと感じている人が多いことがわかる。

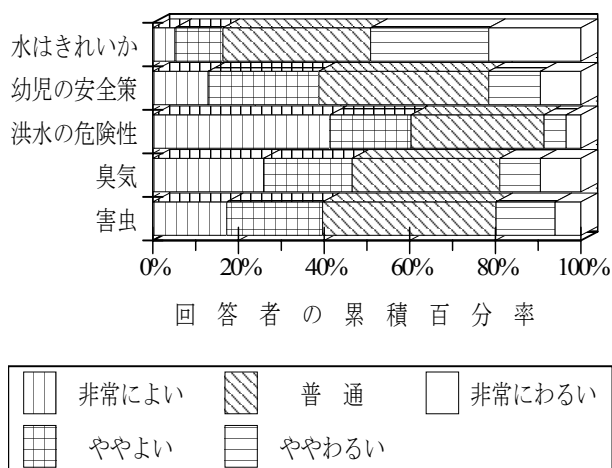


図－7 騒音に関する快適性

8. 河川・池・用水路に関する快適性

河川・池・用水路に関する快適性について、害虫、臭気、洪水の危険性、幼児の安全策、水はきれいかを比較した（図－8 参照）。

“非常によい”と回答しているのは、洪水の危険性で、一番多い。続いて、臭気、害虫となっている。そして、“非常にわるい”と回答している人が一番多いのは、水はきれいかである。続いて、臭気、幼児の安全策となっている。

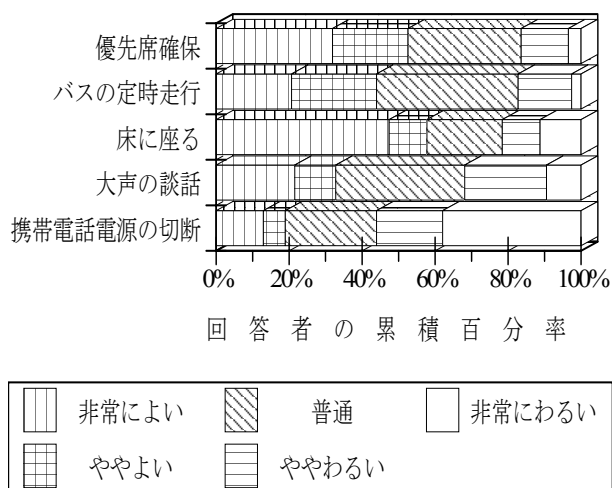


図－8 河川・池・用水路に関する快適性

9. 公共交通機関（バス・J R 電車）に関する快適性

公共交通機関（バス・J R 電車）に関する快適性について、携帯電話電源の切断、大声の談話、床に座る、バスの定時走行、優先席確保を比較した（図－9 参照）。

“非常によい”と回答しているのは、床に座るで、一番多い。続いて、優先席確保、大声の談話となっている。そして、“非常にわるい”と回答している人が一番多いのは、携帯電話電源の切断になっている。続いて、床に座る、大声の談話となっている。



図－9 公共交通機関（バス・J R 電車）に関する快適性

10. クロス集計について

「年齢」、「性別」、「職業」の3項目の属性と、【地域の清潔さに関する快適性】、【ポスター・看板・広告などに関して】、【緑地に関する快適性】、【騒音に関する快適性】、【河川・池・用水路に関する快適性】、【公共交通機関（バス・J R 電車）に関する快適性】、の各項目について、クロス集計を行った。

ここでは、地域の清潔さに関する快適性について述べる。傾向としては各項目ともに、年齢、性別、職業を問わず、全体的に清潔であると感じており、清潔でないと感じる人が少ないという結果となった。[カラスにゴミを荒らされる]という項目には、ほかの項目に比べ“汚い”と感じる人が多かった。

11. SPSSによる分析結果

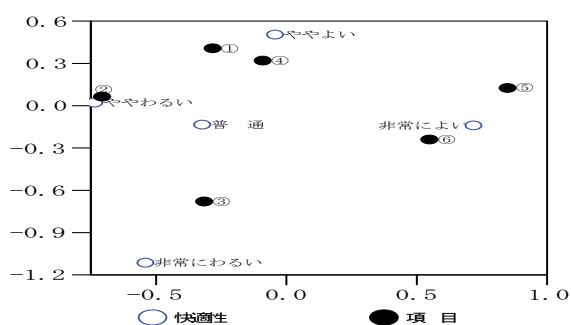
SPSSを用いて、コレスポンデンス分析およびクラスター分析を行った。

【地域の清潔さに関する快適性】、【ポスター・看板・広告などに関する快適性】、【緑地に関する快適性】、【騒音に関する快適性】、【河川・池・用水路に関する快適性】、【公共交通機関（バス・J R 電車）に関する快適性】、の各項目について分析した。

(1) コレスポンデンス分析

ここでは、地域の清潔さに関する快適性の6項目について（図－10）及び騒音に関する快適性の6項目について（図－11）の分析結果を述べる。

1) 地域の清潔さに関する快適性



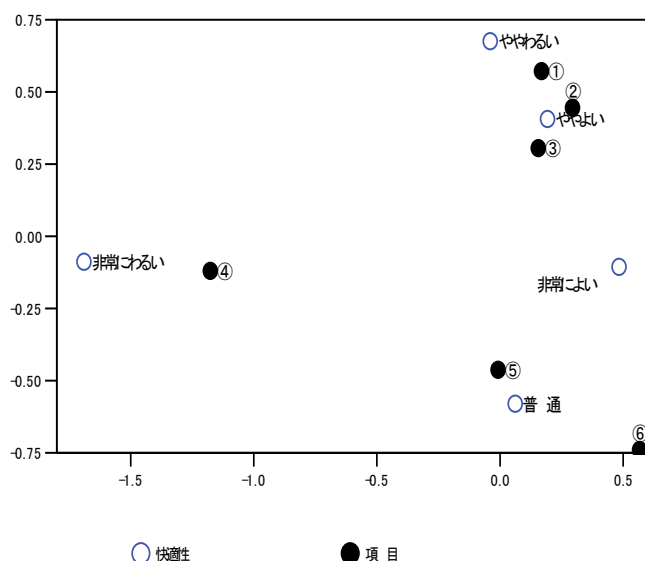
- ①家の周りのゴミ・タバコの吸殻などは整理されているか
- ②動物の糞（犬・猫など）はきれいに始末されているか
- ③カラスなどによってゴミを荒らされていないか
- ④ゴミの分別は守られているか
- ⑤ゴミ置き場は守られているか
- ⑥ゴミ出しの日は守られているか

図－10 コレスポンデンス分析
（地域の清潔さに関する快適性）

図－１０より、項目⑤〔ゴミ置き場は守られているか〕と⑥〔ゴミ出しの日時は守られているか〕は、“非常によい”と感じられている。また、項目①〔家の周りのゴミ・タバコの吸殻などは整理されているか〕と④〔ゴミの分別は守られているか〕は“ややよい”と感じられていることがわかる。

逆に②〔動物の糞（犬・猫など）はきれいに始末されているか〕は“ややわるい”と感じられているといえる。

2) 騒音に関する快適性



① 昼間の交通騒音はうるさくないか

② 隣接する家からの騒音はうるさくないか (テレビ・洗濯機・犬の鳴き声)

③ 夜間の歩行者の声はうるさくないか (話し声・歌声)

④ セミの声はうるさくないか

⑤ 昼間の工事の音はうるさくないか

⑥ 夜間の工事の音はうるさくないか

図－１１ コレスポネンデンス分析

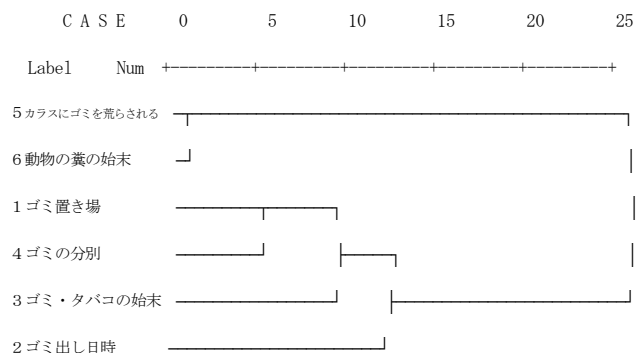
(騒音に関する快適性)

②〔隣接する家からの騒音はうるさくないか (テレビ・洗濯機・犬の鳴き声)〕と③〔夜間の歩行者の声はうるさくないか (話し声・歌声)〕は、“ややよい”と感じられていることがわかる。また、⑤〔昼間の工事の音はうるさくないか〕と⑥〔夜間の工事の音はうるさくないか〕は、“普通”となっているが、“普通”という中間回答は、“非常によい”の近くにあることがわかる。

④〔セミの声はうるさくないか〕は“非常にわるい”の近くに位置しており、わるいと感じられていることがわかる。

(2) クラスター分析

ここでは、地域の清潔さに関する快適性の6つの項目について分析を行う (図－１２)。



図－１２ 地域の清潔さに関する快適性

上図のデンドログラムを見てみると大きく分けて2つのグループに分類することができる。すなわち、⑤〔カラスにゴミを荒らされる〕と⑥〔動物の糞の始末〕の2項目及び①〔ゴミ置き場〕、②〔ゴミ出し日時〕、③〔ゴミ・タバコの始末〕、④〔ゴミの分別〕の4項目となる。

このことから、地域の清潔さに関する快適性についてのクラスター分析結果では、〔カラスにゴミを荒らされる〕と〔動物の糞の始末〕は、似たものどうしであると回答者は感じていることがわかる。

1.2. おわりに

市街地における都市環境の快適性に関するアンケート調査を行い、住民の貴重な快適性・不快適性についての意識を知ることができた。

公共交通機関 (バス・JR電車) に関する快適性については、優先席確保、バスの定時走行に対して非常にわるいと感じている人は少ないが、携帯電話の切断、床に座る、大声の談話に対しては、非常にわるいと感じている人がかなりいることがわかった。このように、今回の調査項目には、一人一人の心がけがあれば改善できるような項目が多かった。例えば、ゴミ・ポスター等・騒音・公共交通機関などの項目では、一人一人が気をつければ改善していけると思われる。そうすれば、もっとすみよい町作りができる。

都市環境についての住民意識は、地域によりかなり違ってくるため、今後さらに調査が必要と思われる。